

～野菜類、花き類及びだいず ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生に注意～

県内の多くの地点でフェロモントラップによるハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウの誘殺数の増加が確認されています。向こう1か月の気温は平年より高く推移する予報であることから、発生に好適であるため、若齢幼虫の発生を確認したら直ちに防除を行いましょう。



図1 フェロモントラップに誘殺されたハスモンヨトウ成虫（左、中央）、シロイチモジヨトウ成虫（右）

1 発生概況について

- (1) ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が、平年に比べて多く推移している地点があります。（図2）また、シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が、増加傾向になっている地点があります。（図3）
- (2) 8月下旬に実施しただいずの巡回調査では、多くの地点で白変葉が確認され、若齢から中齢までの幼虫が多数確認されました。（白変葉発生地点率83%、過去10年の同時期で2番目に多い）
また9月上旬に実施したキャベツの巡回調査でも、一部の調査地点で多数の幼虫が確認されました。
- (3) 広島地方気象台の1か月予報（9月5日発表）では、向こう1か月の気温は高く、今後もハスモンヨトウ等の発生に好適な気候が続くと考えられます。

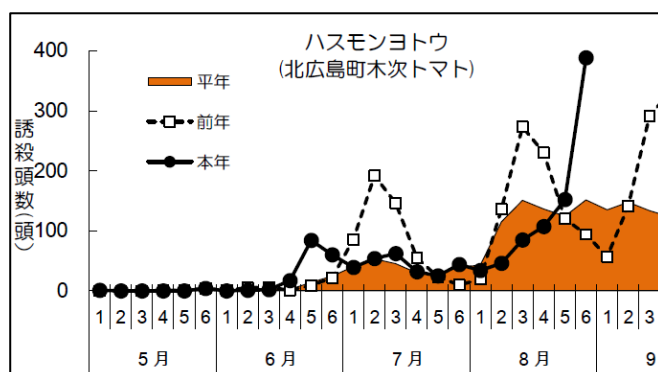
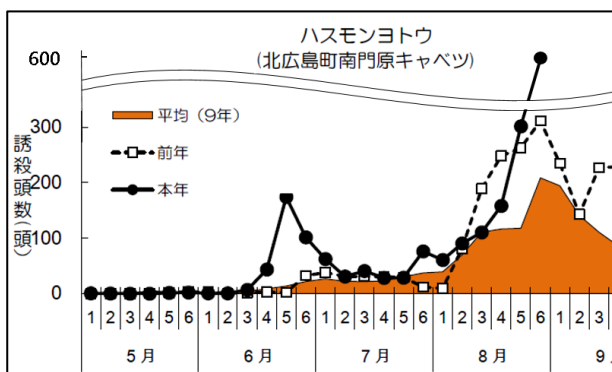


図2 フェロモントラップへのハスモンヨトウ雄成虫誘殺数の推移

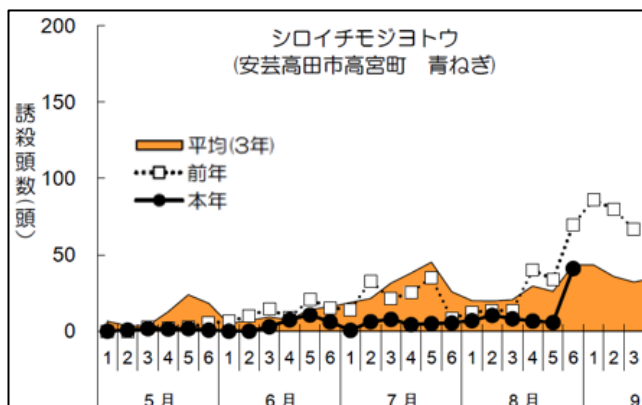
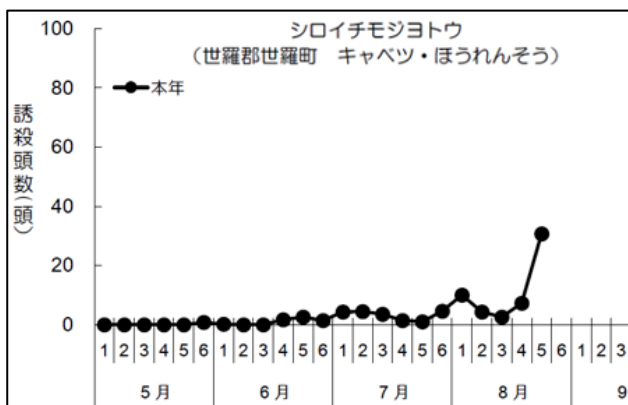


図3 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウ雄成虫誘殺数の推移

2 防除対策について

- (1) ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの幼虫は、広食性で多くの野菜類、花き類及びだいずを加害するため、注意が必要です。
- (2) 雌成虫は、ハスモンヨトウは黄白色、シロイチモジヨトウは灰白色の毛におおわれた卵塊を葉裏に産みつけます(図4)。ほ場を見回り、卵塊が多くみられる場合は、幼虫の発生に注意しましょう。
- (3) ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの幼虫は老齢期になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫(図5)の発生を確認したら、直ちに防除してください。**若齢幼虫の発生時期(防除適期)は、フェロモントラップへの雄成虫誘殺ピークの7~10日後が目安です。**
- (4) 最新のフェロモントラップへの誘殺状況は、「ひろしま病害虫情報」ホームページでご確認ください。
- (5) 薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (6) 薬剤散布については、農薬使用基準を遵守しましょう。収穫前日数に注意し、周辺作物への飛散防止対策も行ってください。



図4 卵塊(左:ハスモンヨトウ、右:シロイチモジヨトウ)



図5 ハスモンヨトウ若齢幼虫



図6 ハスモンヨトウ中齢と老齢幼虫



図7 シロイチモジヨトウ老齢幼虫(左:緑色型 右:黒色型)

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151

東広島市八本松町原 6869

TEL: 082-420-9662 (直通)



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索